

生産者と消費者の交流 グリーン・ツーリズムの取組

「市街地から車で10分ほど走ると農村風景が広がります。農業の生産地は、まちから意外と近いところにあるんですよ」と話すのは、市グリーン・ツーリズム連絡協議会の会長を務める佐々木美津子さん。

千歳の農業を市民の皆さんに知ってもらうことを目的として、7年前に、農産物の直売や観光農園として農業体験を行う農家などが中心となって立ち上げた協議会。現在は38の農家や団体などが登録しています。

それぞれの農家で行う取組のほか、協議会として行事に参加して直売所を開いたり、料理講習会（20ページ参照）を開催するなど、生産者と消費者の交流を深めています。

「料理講習会では、千歳産の野菜や卵、肉を材料としてつかいます。素材を活かした美味しい料理が楽しめます」と話します。

そのほか、農家のお母さんの料理とホテルのシェフが調理する料理を味わう「食と農の交流会」や町内会や学校を対象にした出前講座を行うなど、活動は年々活発になっています。

2. 千消

「千」歳産のものを地域で「消」費する。グリーン・ツーリズム連絡協議会のさまざまな活動など、「千消」の取組は年々活発になっています。



直売所

それぞれの農家で直売所を運営しているほか、道の駅サーモンパーク千歳には、市内54戸の農家が登録し、毎朝新鮮な野菜が届く直売所「旬菜の館」があります。



千歳農産物直売所「旬菜の館」
おおさわ すずむ
大澤 進 店長

店には地元産の野菜や花苗のほか、農家の方の手作り味噌や漬け物など約150品が並びます。これからの時期は、野菜の収穫が増えるので忙しくなりますね。週末などは朝早くからたくさんのお客様が訪れます。

最近はお客様も農産物のことをよく知っています。お客様から「こんな野菜をつくってほしい」などと提案を受け、農家の方に伝えることもあります。

直売所は、生産者である農家と消費者であるお客様をつなぐ場所です。これからも生産者の顔が見える、新鮮で美味しい農産物をお届けします。



千歳農産物直売所
「旬菜の館」
(道の駅サーモンパーク千歳内)

営業時間 9時～17時
(11月中旬まで無休)
☎ (27) 0 5 6 6

活動をおしてうまれる たくさんつながり

観光農園は、観光連盟と連携した取組により北海道を訪れる修学旅行生を受け入れています。

「農業体験やファームステイをととした中高生とのふれあいは、受け入れる農家にとっても楽しいひととき」と佐々木さん。

体験に参加した中高生から後日お礼の手紙が届くこともあるそうです。

グリーン・ツーリズムの取組でうまれるのは生産者と消費者のつながりだけではありません。

「もともと近所の農家の方などと情報交換を行っていましたが、協議会には市内の幅広い地域の方が登録しています。さまざまな地域の農家の方とのつながりがうまれ、『この野菜の新しい品種を植えたら生育が良かった』、『とれた農産物をつかった』、『新しいレシピを考えたい』など、情報交換がより活発になりました。また、グリーン・ツーリズムの行事などに参加することで農業関係の方のほか、商業関係や工業関係の方とのつながりもうまれました」と話します。

加工用のコーンや健康飲料の

市民農園

最近、農家の方が市民の皆さんに農地を貸し付けする市民農園が増えています。

根志越の市民農園では、1区画（35平方メートル）5,000円でだれでも気軽に野菜や草花の作付けをすることができます（利用期間は4月下旬～11月上旬）。

根志越の市民農園利用者は、特典として休憩施設内にある温泉を利用できます（有料）。

